

ひがしもしじ
東下地遺跡

所在地 豊橋市石巻本町東下地ほか
(北緯34度47分52秒 東経137度26分16秒)

調査理由 道路改良工事(主)東三河環状線

調査期間 平成24年7月

調査面積 274㎡

担当者 松田 訓・永井邦仁

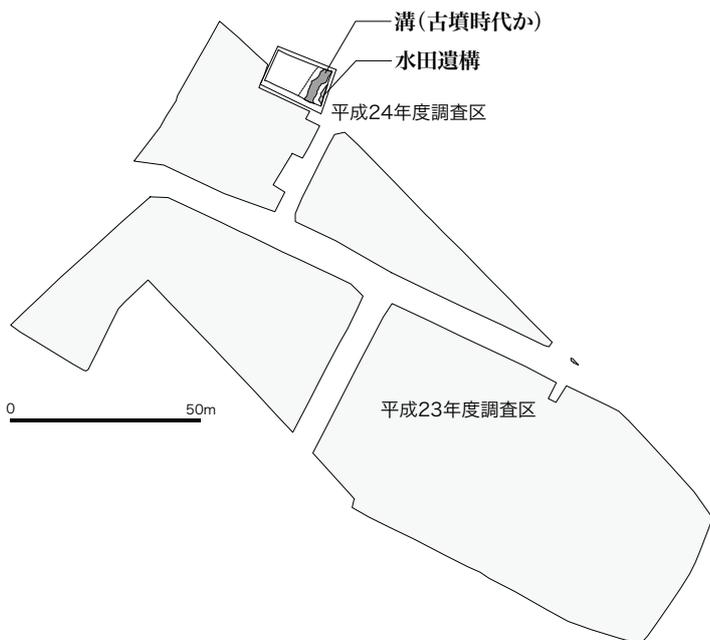


調査地点 (1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は、主要地方道東三河環状線改良工事にかかる事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。昨年度当センターは10,630㎡を発掘調査し、弥生～古墳時代の水田(畦畔)や、中世の土坑墓、掘立柱建物などが検出されている。

立地と環境 遺跡は、豊川左岸の河岸段丘南縁崖下に位置し、神田川右岸の低地に立地する。この低地は神田川の流路変動による影響を受けやすい環境にある。

調査の概要 今回の調査地点は昨年度調査区の北西隅にあたり、野添遺跡のある台地縁辺に近い地点である。南側と西側が既調査地であり、特に南側でみられた水田遺構とそれに伴う溝の延長が予想され、調査区東端付近で水田遺構と溝が検出された。溝は礫を多数含む水流の影響によって各所で抉られ不定形である。遺物は摩滅の激しい土師器小片が若干出土したのみで古墳時代の可能性が考えられる。溝の東側に水田遺構が検出されたが出土遺物はなく時期不詳である。一方、調査区西半部は段丘崖の斜面にかかり、耕作地化などで削平されているため遺構は検出されなかった。(永井邦仁)



調査区位置と遺構概要



調査区全景 (南東から)